

令和6年度 えりも町総合教育会議議事録

1 日 時 令和6年12月3日(火)

2 出席者

- (1) 町 町長、副町長、総務課長
- (2) 教育委員会 教育長、田名部委員、川崎委員、藤井委員、三谷委員、学校教育課長、
社会教育課長

3 議事録

開会(午後4時00分)

教育長

それでは、本年度のえりも町総合教育会議を始めます。
始めに町長から、挨拶をいただきます。

町長

教育は大事なものであることから、予算については、できるだけつけてあげたい。
年々、子どもも少なくなるが学校はあるので、行政として何ができるか、教育委員の意見を聞きながら、行政として進めていきたい。
何かあれば、教育長を通じてでも、意見をいただきたい。

教育長

資料1～5を説明

A委員

感じたことは、子どもたちがとにかく素直であることと、特に今年は、先生の指導力と熱意があつて、何とか子どもたちに伝えようとする気持ちとそれを子どもたちが受け取ってくれる姿が見られた。

今後は、学校のやっていることを地域や保護者に伝えて、家庭学習の定着に理解をもらうことなど子どもたちの成長につなげていくことが重要である。

B委員

学校訪問を通じて言えることは、昨年度とは違い、生徒が明るい。学校が楽しい。新たな雰囲気が見られたことがうれしく感じた。

えりも高校の未来を考える会も高校生を交えた交流は、非常に大事だと思った。

C委員

これまでは地域学校推進委員として、今年から教育委員として、学校訪問したが、推進委員当初に見た学校と今の学校は全然違っている。

一方で一つだけ感じたことがあり、家庭学習の時間が全然足りていないことである。ゲームやSNSを見ている時間が非常に多い。先生が頑張っても、家に帰るとだらける。家庭への理解度が足りていない。家庭と学校が一つとなって、子どもの教育を考えないとならない。PTAはしっかりと子どものことを考えてほしいと思う。

D委員

働き方改革の問題もありながら、先生は一生懸命に頑張って指導している。児童生徒もそれに応じようとして、頑張っている。

笛舞小学校の件であるが、苦難策でPTAや地域とも話し合っただけで決めたことであって、いろいろな経験も必要であると考えます。町財政も厳しいのは理解できるが子どもたちのために、よろしくお願ひしたい。

町長

統合は地域にとったら、子どもたちの学校だけではなくて、地域全体で盛り上げるなど、学校があるお陰で、地域がまとまると思っている。学校が統合しても地域のつながりを持てる形にしてほしい。

えりもは昆布などの手伝い関係で家庭学習に時間がとれないケースもあるのではないかと。

道内の道立高校は、生徒が少なくなってくるも、存続問題が関わってくるが、実は町立高校が注目を浴び出してきている。自由がきき、色々なことができる。町内のみでなく、町外から生徒を呼び込むことも必要になってくる。学校全体の部分で、授業ではなく、民間の力を借りながら、学校でどういう取組ができるかを模索する必要がある。安平町では、早来学園という幼保小中が一緒になった学校があり、様々な取組を実施している。この学校の取組に関わっているのがAという会社で、当町でもキャンプ場の管理運営をその会社から派遣されている地域おこし協力隊が業務を行っている。

当町もこの民間の活力を使って、来年度からえりも高校のPRを図ることや存続に向けて様々なことを検討している。

C委員

私の子どもはえりも高校に行かせなかった。その頃のえりも高校と今のえりも高校は全然違っている。今のえりも高校なら、自分の子を入学させたかもしれない。

町長

高校が全日制になったとき、私が偶然関わっていた。全日制でないと、地元の生徒がみんな出て行ってしまおうし、定時制しかないと様似や浦河の高校に通学するが交通費の負担が大きい。全日制になれば、子どもたちも残ってくれるし、高校あるなしで町が違う。

B委員

今のえりも高校は、国公立の大学に行ける、立派な就職先に就職できることから、是非、地域おこし協力隊を使って、盛り上げてほしい。

町長

この会社は様々な市町村での経験があることから期待している。

えりもで生まれ育った人は、えりものいいところを知らない、気付かない、えりもから出て、初めて気づくことが多い。町外の人が来てえりもの良さを知る良いきっかけになればと思う。

A委員

先日、開催した未来を考える会でも、高校の先生の頑張りが町民に今一伝わっていないので、町外の人を入れて、その人の力を借りながら、町民が高校行く、高校生が町に行くなどになっていけば、おのずと盛り上がるのではないかな。

C委員

こんなに子ども一人ひとりに対し、手厚い高校はない。

学習の幅も広がるし、町の補助も功を奏していて、塾の講師の講義も聞けるし、都会にいたくてもえりも高校で十分対応できるし、環境も整っている。

B委員

全小中高に1人1台タブレットを配置して、学習できる環境は素晴らしい。児童生徒は幸せな時代を迎えていると感じた。

町長

田舎だからできない、都会だからできる、こういうことを無くしていかないとならない。

A委員

行政として、えりも高校の存続に対して様々なバックアップがあるので、安心してきてほしいということを行政として伝えることが必要ではないかな。

未来を考える会で、「行政としての考えはどうなんだろう？」と言っている親もいた。行政として、えりも町として、「えりも高校は残したい、安心して入学してください。」の一声があれば、えりも高校に来るのではないかと思っている。

町長

先程も話したように、えりも高校は残せるうちは残す必要があるし、生徒数の問題もあるが、まったくいなくなる訳でもないし、そこは維持していく部分は維持していかなければならない。それに対して何ができるかが町立高校の強みで、本来の学校の取組に民間の力を借りて、生徒や地域の方が高校に興味を示してくれる取組をするとえりも中学校から1人でも多く、えりも高校に行ってみようを思う子が出てくればいい。併せて、町外の中学生にも「えりも高校は面白い取組をしているね。」など広まれば、また違うのではないか。

B委員

先日の子ども議会を拝聴させていただいた。

立派な施設で、質疑応答もできる場を設けてもらって、幸せな時代になった。

A委員

1番最初に質問した笛舞小学校の児童は、6年生は1人しかいない。今年、学校訪問に行ったときに、6年生が最上級ということもあってか、自覚が芽生えて、あのような立派な質問した。まず、質問する前に、「遊具を作ってくれてありがとうございます。」から始まった。すごく立派で、先生の指導や地域にも支えられていて、すごくいい子ども議会でした。

副町長

光の園幼稚園が令和8年度で閉園するということが、えりも岬保育所や庶野保育所の現在のお子さんや保護者の状況を聞くため、3回ほど地域を回った。

実際にえりも岬にしても、庶野にしても、学校は地域にとって大切なものであることから、できるだけ、子どもの減少わかってはいるが、保育所や小学校は残してほしいとの思いが地域を回って痛切に感じた。

総務課長

予算は教育だけではなく、他の分野の予算もあるので、ある程度バランスを取りながらになることをご理解願いたい。

町長

学校は大事だと思っている。特にえりも高校は町立なので、なんとか残したい。行政として何ができるか、民間の力も入れながら、高校に興味を持ってもらえるような高校にしていきたい思いがある。

また、先生に対しても、私も教育委員会にいたときに、当時の教育委員長に、「いい先生にきってもらうためには、住宅も含めて、環境をよくしないと駄目だ。」と言われたことがあった。

教員住宅も古くなってきているし、新卒の先生もいるので、計画的に教員住宅を建設していきたいし、児童生徒や先生に対しても教育環境を計画的に整えていきたい。

来年度、民間が入ることにより、えりも高校がどのように変わるかが楽しみである。

委員の皆さんも、何かあれば、遠慮なく言ってほしい。

閉会（午後5時15分）